

【新見労働基準監督署Web講習会シリーズ】

注意!! 行動災害（転倒、腰痛等）が増加しています

SAFEコンソーシアムについて

行動災害発生状況まとめ

- 労働災害は特に第三次産業で増加傾向
- その内訳は、**転倒**や**腰痛**などの行動に起因するものが多い

背景

- ✓産業構造の変化（第一次・第二次産業から第三次産業へ）
- ✓労働力の高齢化・・・しかし若年世代でも労働災害は増加

人手不足

働き方の多様化 (フルタイム・終身雇用→パートタイム・短期間の契約)

顧客第一

第二次産業との文化の違い

対策に取り組むメリットが不明

これまでのアプローチでは労働災害を減少させられなくなっている。

労働災害を社会問題としてとらえ、ステークホルダー全員で
解決策を考えて取り組む必要がある。

働く人と、全ての人の幸せのために。

Safer Action For Employees (SAFE) を旗印に
すべてのステークホルダーが一丸となり、
働く人と、全ての人の幸せのために、
安全で健康に働くことのできる
職場環境の実現のため取り組む。



SAFE推進幹事会

- ・厚生労働省
- ・関係省庁
- ・労使団体

企業・団体メンバー

- ・一般メンバー（企業・団体・労働組合）
- ・あんぜんプロジェクトメンバー（企業）
※ロイヤルメンバー
- ・安全で安心な店舗施設づくり推進運動
参加メンバー
※ロイヤルメンバー



アンバサダー



サポーター

SAFE 推進アドバイザー

- ・労働安全衛生の専門家（資格者）
- ・労災防止ソリューション団体

地方協議会構成員メンバー
（小売・介護施設）

従業員・個人メンバー

SAFE コンソーシアムが目指すところ

- ▶ 労働災害を自分ごととしてとらえ、解決策を考えていく機運をつくる
- ▶ 顧客だけでなく、従業員の安全第一のための取組をステークホルダー全員で推進する

SAFE コンソーシアムの取組

- ① 労働災害問題の協議・周知（シンポジウム）
- ② **SAFEアクションの共有**、コンソーシアム事務局主催イベント等による**マッチングによるSAFEアクションの創出**
- ③ SAFEアクション優良事例の表彰、コンソーシアム内外への発信（**SAFEアワード**）
- ④ 参画メンバー及びコンソーシアム認知向上（ロゴマーク、バナー等）

参画メンバー（企業、団体、個人）の募集を開始！

SAFE アクションの例

● 企業における取組

（例）腰痛予防体感教育



（例）転倒防止のための靴のすり減りの見える化



● マッチングによる取組

（例）フィットネス企業の監修による
労災防止にも効果のある体操の開発

（例）大学と企業による社員
食堂健康メニューの共同開発

地方協議会について

SAFEコンソーシアム（全業種）本省

加盟団体が連携し、表彰（SAFEアワード）や広報活動の実施を通じて、目標達成のための国民運動を推進

- ・ 協議会構成員の参加
- ・ アワードへの応募

労働局

SAFE地方協議会（小売・介護施設）

管内企業を構成員とし、意見交換や広報活動等の取組を実施

管内のトップ企業

複数店舗を経営する
中規模程度の企業

労働局

+Safe(SAFE)育成支援（小売・介護施設）

都道府県労働局が個別に企業の課題発掘・取組実施を支援

その他の企業

※コンソーシアムに参加することも考えられる

支援を通じて協議会構成員への追加を目指す

労働局

その他労働局・監督署における実施事項（継続）

監督署

- ・ 店舗密集型施設における周知啓発
- ・ 関連団体・機関との連携による効果的な周知啓発
- ・ 転倒災害を発生させた事業場に対する自主点検の実施要請



SAFEコンソーシアムポータルサイト



ご清聴ありがとうございました